

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

|       |                  |
|-------|------------------|
| 施設番号  | 66-1066          |
| 施設名   | 北綾瀬聖華保育園         |
| 施設所在地 | 足立区谷中 1 - 32 - 9 |
| 法人名   | 社会福祉法人流山中央福祉会    |

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

積み木

<テーマの設定理由>

3歳児クラスではブロックやカプラで遊ぶ姿が多かったが、積み木の購入をきっかけに、積み木の大きさや形を知ること、摘む、並べるを繰り返していくことで出来上がっていく作品の面白さや友達と協力して作り上げる楽しさを体験し、また作品を利用して遊びが広がっていく経験をして欲しいと考えた。

## 2. 活動スケジュール

10:00～11:00    1回目    9月20日  
                         2回目    10月9日  
                         3回目    10月10日

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・積み木、ミニドール、シュライヒ、ブロック、スケーラ
- ・保育室内の環境を広くした。
- ・いつでも取り出しやすいに、積み木の入った箱を床に置いた。
- ・作ったものをもって置けるようにして、後からでも続きが出来るようにした。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

積み木にはいろいろな形があることを伝え触ってみることから始める。思い思いに積んでみる。初めは個々に取り組んでいたが、回を重ねるごとに、友達と協力して1つのものを作る姿が見られるようになった。作ったものに、ミニドールなど積み木以外のものを利用し、積み木を家に見立てて、冷蔵庫や家具、ベットを作りごっこ遊びなどに発展するようになっていった。初めに作るものを決めて作る子も増えてきた。積んで、見立て、想像して演じるという経験をしていた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

女の子二人で積み木を使って遊び始める。先生「何作っているの?」と聞くと「お家」と答えてくれた。二人で組み立てレゴブロックの人形を持ってくる。「どこに寝かせてあげる?」「ここにしよう」「そうだ! 冷蔵庫も作ろうよ」「いいよ」と二人の「会話が聞こえてきた。」「コケコッコー朝ですよ」と次第にごっこ遊びに発展する。

「ロボットの道を作ろう～」と保育士が声を掛けると一緒に積み木を繋げ始め、それに気づいた数名と一緒に作り始めた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

・子どもたちにとって作ったものを取っておける環境が良い。さらに発展するためには、積み木と組み合わせる玩具のバリエーションがあると良いと感じる。定期的に組み合わせるアイテムの入れ替えがあると良い。

・積み木が倒れた時に子ども達自身でもう一度挑戦しようとしている事が良い。

・保育士が子どもの気持ちを受け止めるながら積み木を一緒に行うことで遊びが広がっていた。